

=====

** 日本学術会議ニュース・メール ** No.502** 2015/7/24

=====

■-----

歴史教育の明日を探る―「授業・教科書・入試」改革に向けて―

-----■

日時：2015年8月1日（日）13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂（入場無料・事前予約不要）

（趣旨）

日本学術会議・史学委員会では、これまでも高校歴史教育について、「歴史基礎」の設置、用語の見直しやジェンダー視点を入れた教科書の書き換え等の提言を行ってきました。今回のシンポジウムでは、ジェンダー視点の重視とともに、模索が続く「授業・教科書・入試」という3つの改革を連動させて、新しい歴史教育の実践を具体的に考えたいと思います。

第一部で「改革の三位一体」を現場の声とつなぐ議論をした後、第二部では、その教材実例として「慰安婦」問題を取り上げます。アメリカの歴史学者らから出された「日本の歴史家を支持する声明」（2015年5月5日）や、「慰安婦」問題に関する日本の歴史学会・歴史教育者団体の声明」（2015年5月25日）といった研究者の声、歴史研究の成果は、教育現場にどのように反映されるのでしょうか。実践的に探ってみたいと思います。

プログラム

◆13:00 趣旨説明 井野瀬久美恵（日本学術会議副会長・甲南大学文学部教授）

◆13:10～14:40

第一部 授業・教科書・入試

～歴史教育改革を三位一体で考える～

○報告1 歴史教科書をどう書き換えるか？―ジェンダーの視点から

三成美保（第一部会員・奈良女子大学大学院生活環境科学系教授）

○報告2 高校歴史教育のあり方をめぐる議論

久保亨（第一部会員・史学委員会委員長・信州大学人文学部教授）

○報告3 制度の壁か思考の壁か？―暗記オンリーでない歴史の試験をめざして

桃木至朗（連携会員・大阪大学大学院文学研究科教授）

○コメント 現場の声をつなぐ：小川幸司（長野県立長野高等学校教頭）

◆14:50～15:45

第二部 教材実例としての「慰安婦」問題

～研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成～

○報告1 長志珠絵（連携会員・神戸大学大学院国際文化科学研究科教授）

○報告2 小浜正子（連携会員・日本大学文理学部教授）

○コメント ドイツとの比較から

姫岡とし子（連携会員・東京大学大学院人文社会系研究科教授）

◆15:45～16:55 総合討論

司会：井野瀬久美恵

平野千果子（連携会員・武蔵大学人文学部教授）

◆16:55 閉会の辞 久留島典子（第一部会員・東京大学史料編纂所教授）

主 催：日本学術会議史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会

共 催：日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会

科研費基盤研究（A）「ジェンダー視点に立つ『新しい世界史』の構想と『市民教養』としての構築・発信」

<http://krs.bz/sci/c?c=259&m=22090&v=14cd2ba0>

後 援：ジェンダー史学会・日本史研究会

問い合わせ先：日本学術会議事務局（審議第一担当）付第一部担当

s251@sci.go.jp

★-----☆

日本学術会議では、Twitter を用いて情報を発信しております。

アカウントは、@sci_info です。

日本学術会議広報の Twitter のページはこちらから

<http://krs.bz/sci/c?c=260&m=22090&v=6f1ac5e1>

☆-----★

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://krs.bz/sci/c?c=261&m=22090&v=ca9155ef>

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://krs.bz/sci/c?c=262&m=22090&v=ff7ce3bc>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34